

第Ⅱ章 調査対象者の概要

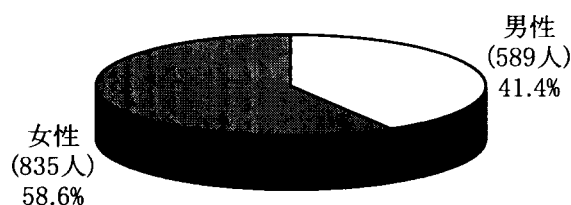
タイムスタディ調査の対象者は1,461人、患者特性調査の対象者は1,489人であった。これらの対象者のうち、タイムスタディ調査および患者特性調査の両方の調査を実施した対象者は1,446人であった。さらにこのうち、タイムスタディ調査においてケア時間が著しく逸脱したもの（3標準偏差から外れる）が22人であり、以下ではそれらを除いた1,424人を分析の対象とした。

この1,424人の概要を患者特性調査の項目からみると以下のとおりである。

1. 性別

対象者1,424人のうち、男性は589人（41.4%）、女性は835人（58.6%）であった。

図Ⅱ－1 性別



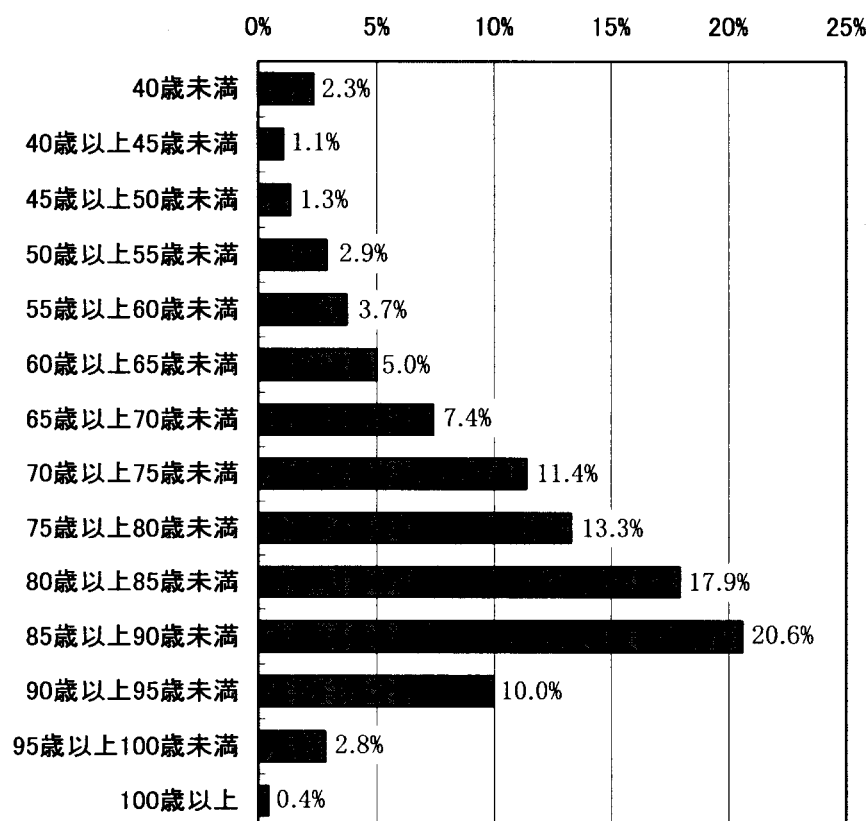
表Ⅱ－1 性別

	人数	構成比
男性	589	41.4%
女性	835	58.6%
計	1,424	100.0%

2. 年齢

年齢階級別にみると、「85歳以上90歳未満」が293人（20.6%）と最も多く、次いで「80歳以上85歳未満」が255人（17.9%）であった。平均年齢は、76.7歳であった。

図Ⅱ-2 年齢



表Ⅱ-2 年齢

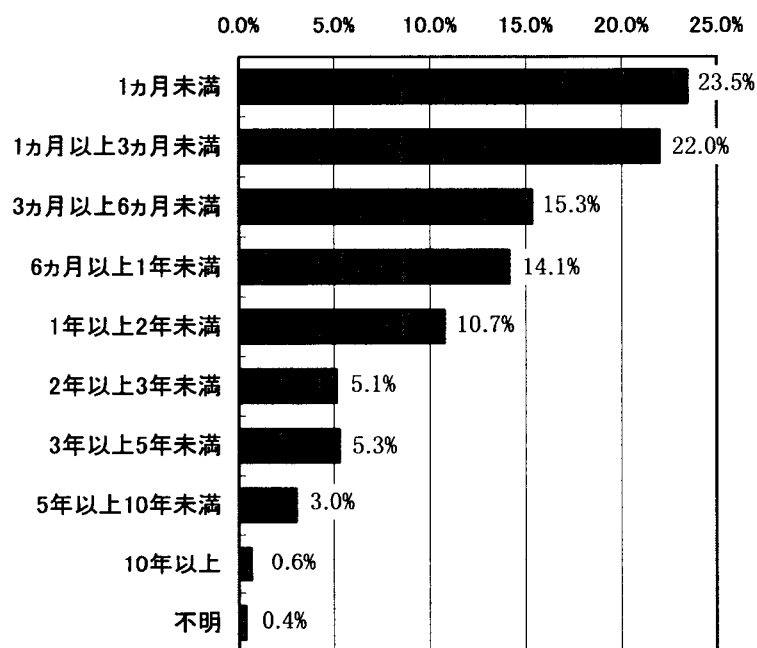
年齢階級	人数	構成比	年齢階級	人数	構成比
40歳未満	33	2.3%	70歳以上75歳未満	162	11.4%
40歳以上45歳未満	15	1.1%	75歳以上80歳未満	189	13.3%
45歳以上50歳未満	19	1.3%	80歳以上85歳未満	255	17.9%
50歳以上55歳未満	41	2.9%	85歳以上90歳未満	293	20.6%
55歳以上60歳未満	53	3.7%	90歳以上95歳未満	142	10.0%
60歳以上65歳未満	71	5.0%	95歳以上100歳未満	40	2.8%
65歳以上70歳未満	105	7.4%	100歳以上	6	0.4%
			計	1,424	100.0%

平均年齢：76.7歳

3. 入院期間

入院期間をみると、「1ヵ月未満」の対象者が334人（23.5%）と最も多く、次いで「1ヵ月以上3ヵ月未満」が313人（22.0%）であった。平均入院期間は約400日（約1年1ヵ月）であった。

図Ⅱ－3 入院期間



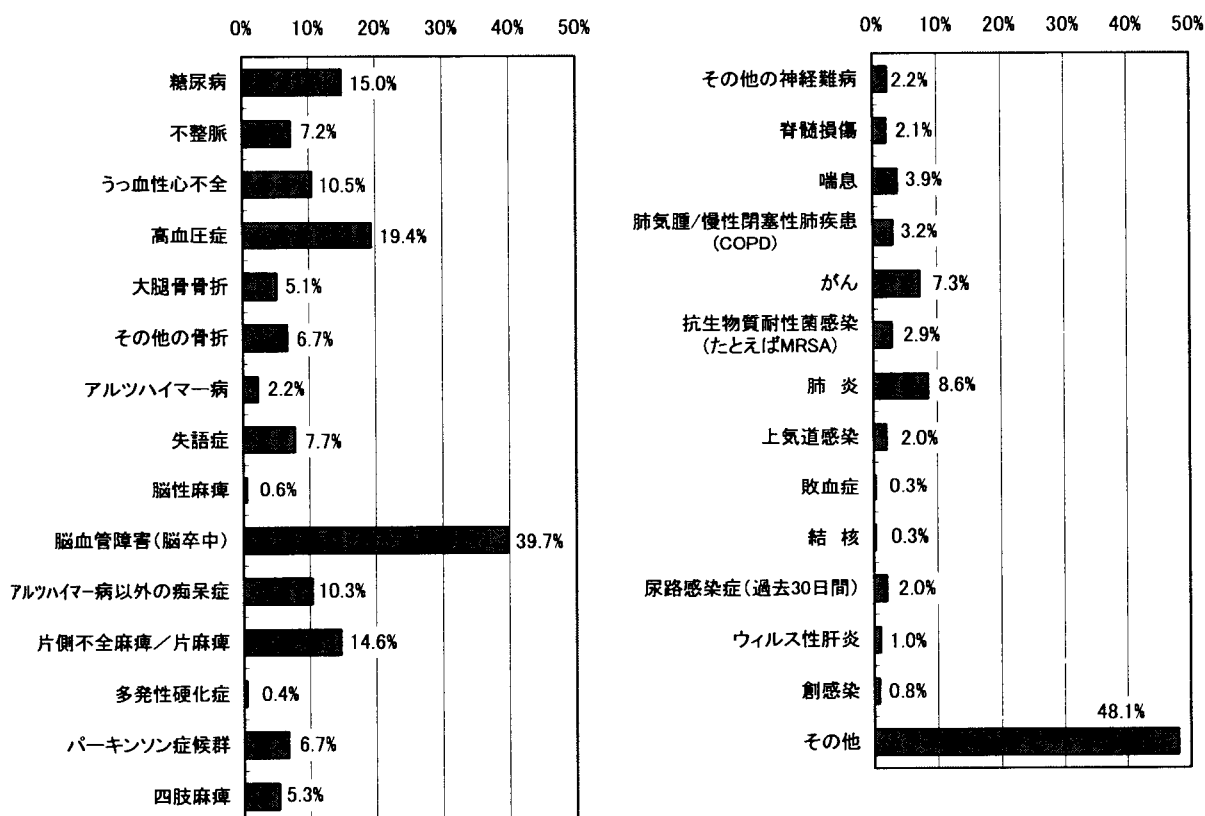
表Ⅱ－3 入院期間

	人数	構成比
1ヵ月未満	334	23.5%
1ヵ月以上3ヵ月未満	313	22.0%
3ヵ月以上6ヵ月未満	218	15.3%
6ヵ月以上1年未満	201	14.1%
1年以上2年未満	153	10.7%
2年以上3年未満	73	5.1%
3年以上5年未満	75	5.3%
5年以上10年未満	43	3.0%
10年以上	9	0.6%
不明	5	0.4%
計	1,424	100.0%

4. 疾患

治療を受けている、あるいは現在の ADL に関係している疾患の状況についてみると、「脳血管障害（脳卒中）」が 565 人（39.7%）と最も多く、次いで「高血圧症」が 276 人（19.4%）、「糖尿病」が 213 人（15.0%）、「片側不全麻痺／片麻痺」が 208 人（14.6%）であった。

図Ⅱ-4 疾患（複数回答）



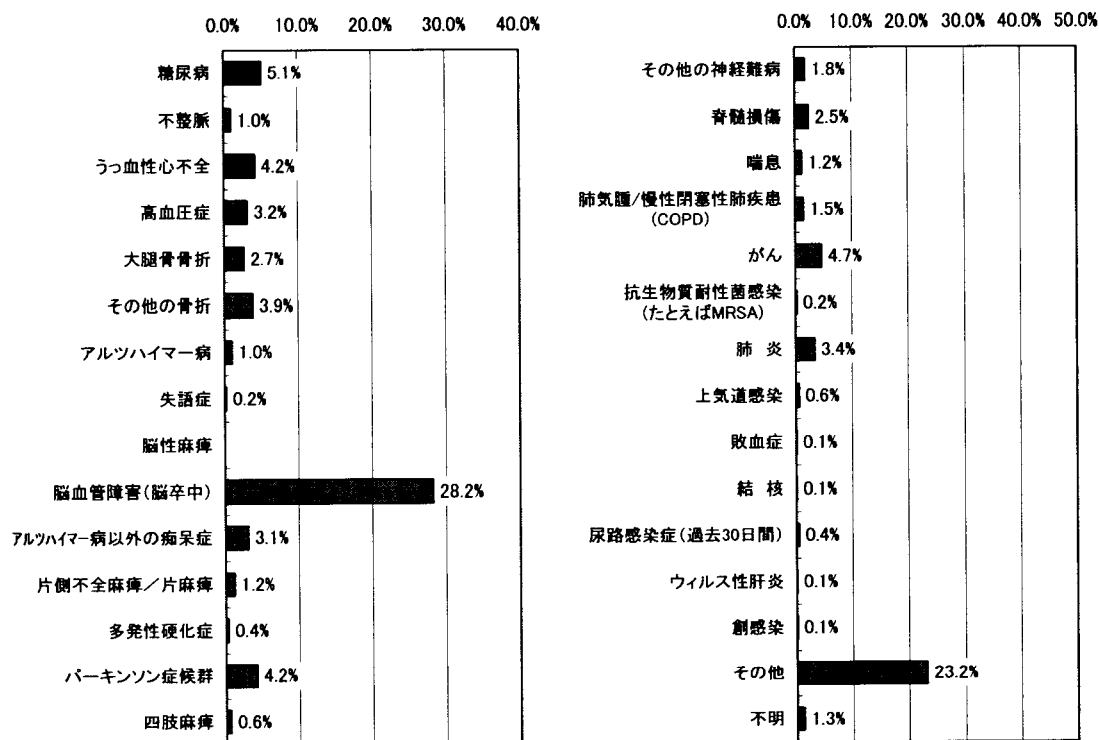
表Ⅱ-4 疾患

疾患名	人数	構成比	疾患名	人数	構成比
糖尿病	213	15.0%	その他の神経難病	32	2.2%
不整脈	103	7.2%	脊髄損傷	30	2.1%
うつ血性心不全	149	10.5%	喘息	55	3.9%
高血圧症	276	19.4%	肺気腫／慢性閉塞性肺疾患(COPD)	45	3.2%
大腿骨骨折	72	5.1%	がん	104	7.3%
その他の骨折	95	6.7%	抗生物質耐性菌感染(たとえばMRSA)	41	2.9%
アルツハイマー病	31	2.2%	肺炎	122	8.6%
失語症	110	7.7%	上気道感染	29	2.0%
脳性麻痺	8	0.6%	敗血症	4	0.3%
脳血管障害(脳卒中)	565	39.7%	結核	4	0.3%
アルツハイマー病以外の痴呆症	147	10.3%	尿路感染症(過去30日間)	29	2.0%
片側不全麻痺／片麻痺	208	14.6%	ウイルス性肝炎	14	1.0%
多発性硬化症	6	0.4%	創感染	11	0.8%
パーキンソン症候群	95	6.7%	その他	685	48.1%
四肢麻痺	75	5.3%			

N=1,424

また、対象者の主疾患については、「脳血管障害（脳卒中）」が 402 人（28.2%）、
「その他の疾患」が 330 人（23.2%）であった。

図Ⅱ-5 主疾患



表Ⅱ-5 主疾患

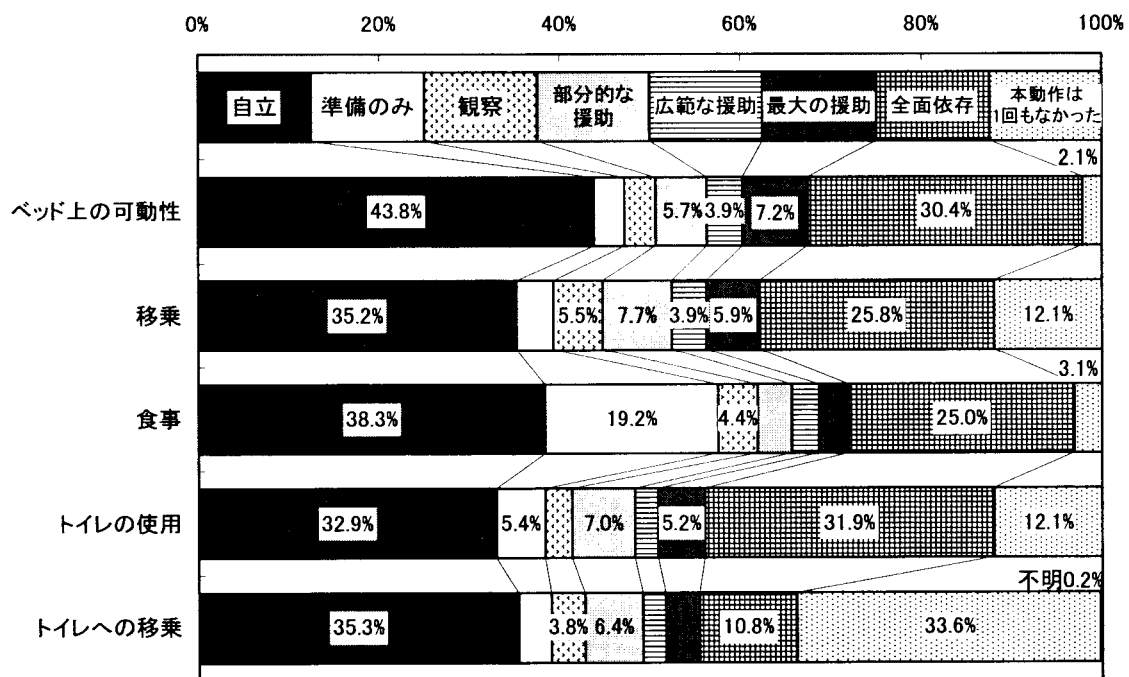
疾患名	人数	構成比
糖尿病	73	5.1%
不整脈	14	1.0%
うっ血性心不全	60	4.2%
高血圧症	45	3.2%
大腿骨骨折	38	2.7%
その他の骨折	55	3.9%
アルツハイマー病	14	1.0%
失語症	3	0.2%
脳性麻痺	0	0.0%
脳血管障害(脳卒中)	402	28.2%
アルツハイマー病以外の痴呆症	44	3.1%
片側不全麻痺/片麻痺	17	1.2%
多発性硬化症	5	0.4%
パーキンソン症候群	60	4.2%
四肢麻痺	9	0.6%

疾患名	人数	構成比
その他の神経難病	26	1.8%
脊髄損傷	35	2.5%
喘息	17	1.2%
肺気腫/慢性閉塞性肺疾患(COPD)	21	1.5%
がん	67	4.7%
抗生物質耐性菌感染(たとえば MRSA)	3	0.2%
肺炎	48	3.4%
上気道感染	8	0.6%
敗血症	2	0.1%
結核	1	0.1%
尿路感染症(過去 30 日間)	6	0.4%
ウイルス性肝炎	2	0.1%
創感染	1	0.1%
その他	330	23.2%
不明	18	1.3%
合計	1,424	100.0%

5. ADL自立度

ADL自立度を5項目についてみると、いずれの項目についても「自立」の割合が高く、特に「ベッド上の可動性」では43.8%であった。一方、「全面依存」についての割合も高く、「ベッド上の可動性」と「トイレの使用」では30%を超えていた。また、「トイレへの移乗」では「全面依存」が他の項目と比べて低いものの、「本動作は一回もなかった」が33.6%と他の項目と比べて高かったことから、いずれの項目も「自立」と、「全面依存」または「本動作は1回もなかった」に二極化しているといえる。

図Ⅱ-6 ADL自立度



表Ⅱ－6 ADL 自立度

	自立	準備のみ	観察	部分的な援助	広範な援助	最大の援助	全面依存	本動作は1回もなかった	不明	計
ベッド上の可動性	624 43.8%	48 3.4%	49 3.4%	81 5.7%	56 3.9%	103 7.2%	433 30.4%	30 2.1%	-	1424 100.0%
移乗	501 35.2%	58 4.1%	78 5.5%	109 7.7%	55 3.9%	84 5.9%	367 25.8%	172 12.1%	-	1424 100.0%
食事	546 38.3%	273 19.2%	62 4.4%	54 3.8%	43 3.0%	46 3.2%	356 25.0%	44 3.1%	-	1424 100.0%
トイレの使用	469 32.9%	77 5.4%	42 2.9%	99 7.0%	37 2.6%	74 5.2%	454 31.9%	172 12.1%	-	1424 100.0%
トイレへの移乗	503 35.3%	52 3.7%	54 3.8%	91 6.4%	36 2.5%	53 3.7%	154 10.8%	478 33.6%	3 0.2%	1424 100.0%

6. ADL 得点

ADL 得点とは、ADL の状態によってケア時間の差を最もよく説明できるように重み付けをして得た値で、本調査研究における分類にも用いられるものである。

患者特性調査票項目の「G1.ADL 自立度」の「ベッド上の可動性」「移乗」「食事」「トイレの使用」の 4 項目から計算され、4～18 点までの点数がつけられる。ADL 自立度が低いほど ADL 得点は高くなる（表Ⅱ-8）。

調査対象者の ADL 得点についてみると、「4～5 点」が 563 人（39.5%）と最も多く、次いで「17～18 点」が 444 人（31.2%）、「10～16 点」が 283 人（19.9%）であった。自立度が高い群と低い群がそれぞれ 4 割弱、3 割強と二極化しているといえる。

図Ⅱ-7 ADL 得点



表Ⅱ-7 ADL 得点

ADL 得点	人数	構成比
4～5 点	563	39.5%
6～9 点	134	9.4%
10～16 点	283	19.9%
17～18 点	444	31.2%
計	1,424	100.0%

表Ⅱ-8 ADL 得点

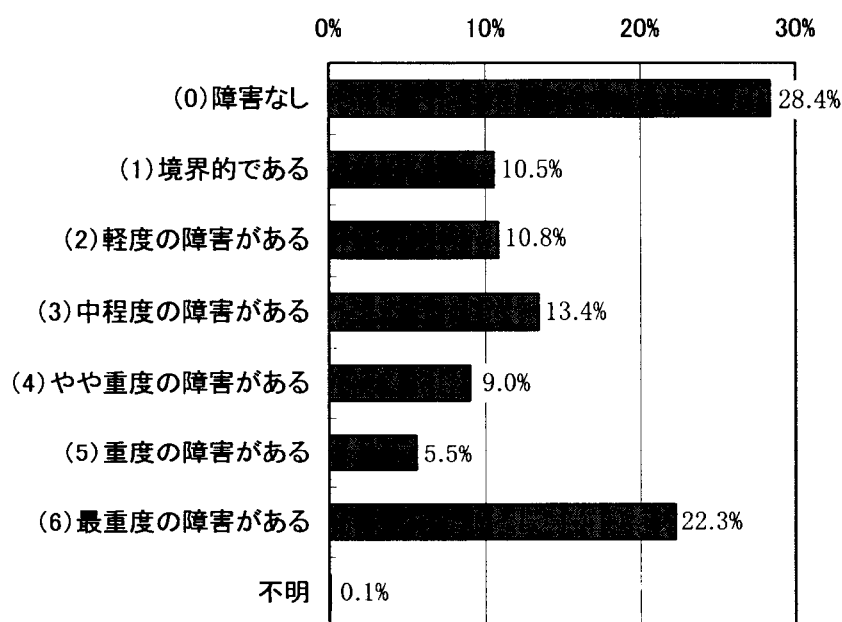
「G1.ADLの自立度」 の項目	自立度	ADL 得点
a. ベッド上の可動性	0「自立」～ 2「観察」	1点
	3「部分的な援助」、4「広範な援助」	3点
	5「最大の援助」	4点
	6「全面依存」、8「本動作は3日間に1回もなかった」	5点
b. 移乗	0「自立」～ 2「観察」	1点
	3「部分的な援助」、4「広範な援助」	3点
	5「最大の援助」	4点
	6「全面依存」、8「本動作は3日間に1回もなかった」	5点
h. 食事	0「自立」～ 2「観察」	1点
	3「部分的な援助」	2点
	4「広範な援助」、5「最大の援助」、6「全面依存」、 8「本動作は3日間に1回もなかった」	3点
i (A). トイレの使用	0「自立」～ 2「観察」	1点
	3「部分的な援助」、4「広範な援助」	3点
	5「最大の援助」	4点
	6「全面依存」、8「本動作は3日間に1回もなかった」	5点

7. CPS（認知機能尺度）

CPS（Cognitive Performance Scale：認知機能尺度）は、患者特性調査票の項目から痴呆のスケールを計算するもので、「(0) 障害なし」から「(6) 最重度の障害がある」まで、7段階に分けられる（図Ⅱ-9）。

調査対象者のCPSをみると、「(0) 障害なし」が404人（28.4%）と最も多く、次いで「(6) 最重度の障害がある」が317人（22.3%）であった。

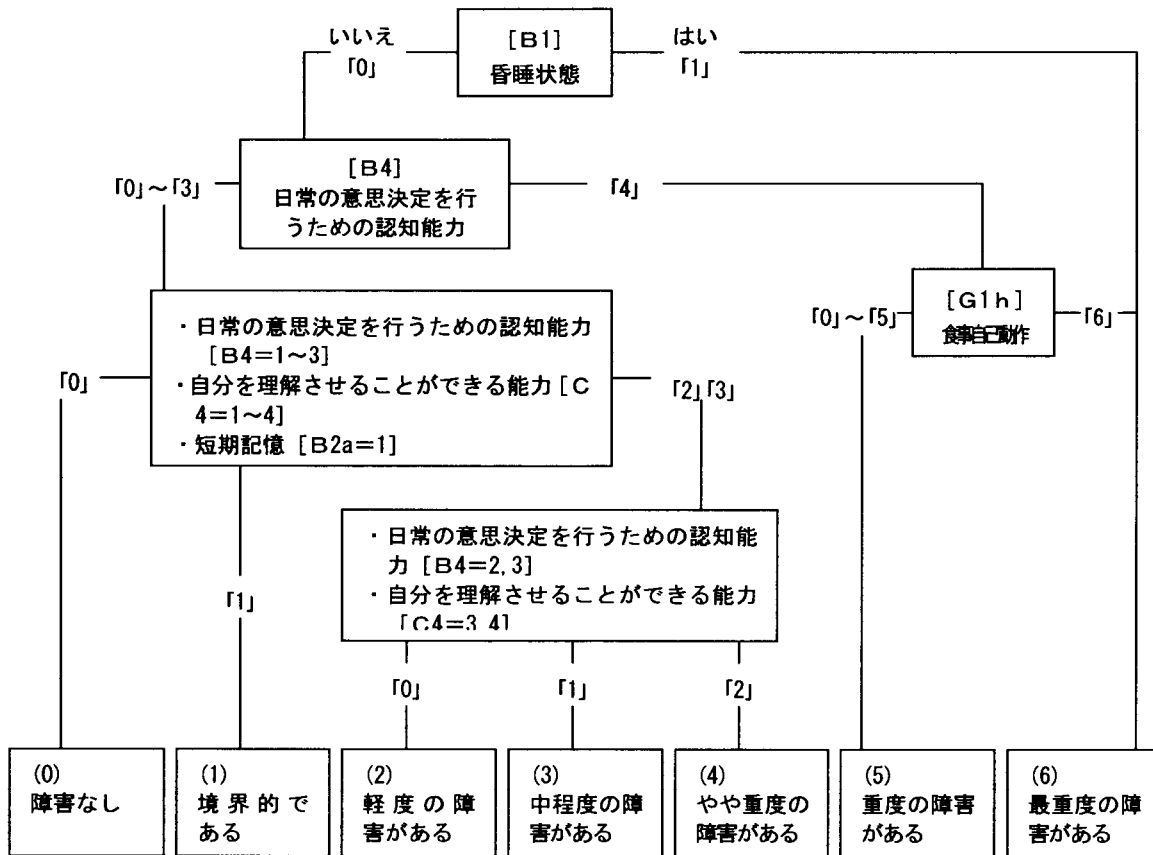
図Ⅱ-8 CPS



表Ⅱ-9 CPS

	人数	構成比
(0) 障害なし	404	28.4%
(1) 境界的である	150	10.5%
(2) 軽度の障害がある	154	10.8%
(3) 中程度の障害がある	191	13.4%
(4) やや重度の障害がある	128	9.0%
(5) 重度の障害がある	79	5.5%
(6) 最重度の障害がある	317	22.3%
不明	1	0.1%
計	1,424	100.0%

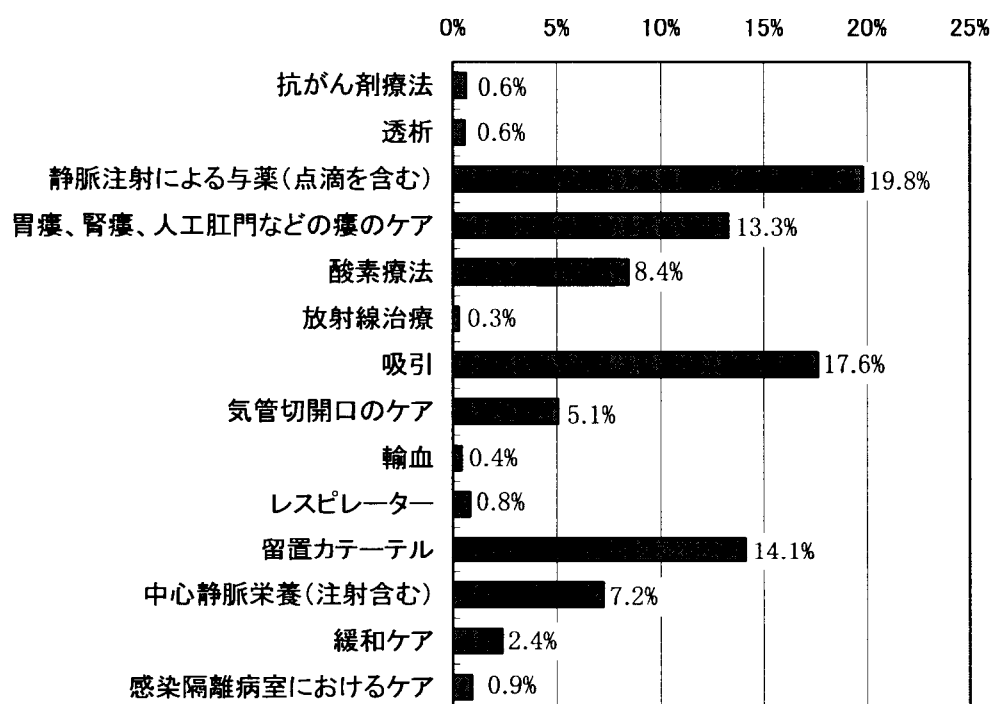
図 II -9 CPS の分類方法



8. 処置・治療

過去 7 日間に受けた処置・治療についてみると、「静脈注射による与薬（点滴を含む）」が 282 人（19.8%）と最も多く、次いで「吸引」が 251 人（17.6%）、「留置カテーテル」が 201 人（14.1%）であった。

図Ⅱ－10 処置・治療



表Ⅱ－10 処置・治療

処置・治療名	人数	構成比	処置・治療名	人数	構成比
抗がん剤療法	9	0.6%	気管切開口のケア	72	5.1%
透析	8	0.6%	輸血	6	0.4%
静脈注射による与薬(点滴を含む)	282	19.8%	レスピレーター	12	0.8%
胃瘻、腎瘻、人工肛門などの瘻のケア	189	13.3%	留置カテーテル	201	14.1%
酸素療法	120	8.4%	中心静脈栄養(注射含む)	103	7.2%
放射線治療	4	0.3%	緩和ケア	34	2.4%
吸引	251	17.6%	感染隔離病室におけるケア	13	0.9%

N=1,424